

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『人と地域を動かす交通 ——陸・海・空のモビリティ× ツーリズム』

高橋愛典，野村実，西藤真一，
野村宗訓編著
成山堂書店発行
2026年7月／3,300円（税込）
所蔵箇所：信濃町

「モビリティ×ツーリズム」の実態と政策的論点を、陸・海・空の交通を対象に概説した一冊。

商学における交通研究の源流やモビリティの概念を踏まえて、地域公共交通の活性化や国内航空ネットワークの維持をはじめ、コミュニティ交通、公共ライドシェア、渡船、リージョナル航空など、地域で暮らす人びとの交通を扱っている。また、アフターコロナの旅行業、交流人口の拡大における航空会社の役割、空港を起点とする地域活性化、インバウンドへの対応といったツーリズムの新展開も取り上げるほか、地域に関わる多様な交通アクターに焦点を当てている。

本書の企画の発端は西宮市大学共通単位講座のオムニバス講義であり、交通・観光関連の実務家を含む異なる分野の執筆陣が、少子高齢化・人口減少、地域間格差、観光の変容などをクロスオーバーな観点で論じている。交通・観光分野の関係者が政策形成や戦略展開を考える際、また関連分野・関連事業を学ぶ学生が基礎的な論点を把握する際の一助となるだろう。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『交通の質とは何か』

運輸経済研究センター編集・発行

1974年3月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

本書は、運輸総合研究所の前身である運輸経済研究センターがとりまとめた「交通における人間工学的諸条件に関する研究」の報告である。

本書発行当時、わが国は交通の量的拡大の結果として混雑や公害、自動車事故の増加などが表面化し、交通の質的向上を望む声が高まっていた。そこで本書では、利用者の立場から見た都市公共交通の質およびその評価項目を安全性・便利性・快適性の面から考察している。

たとえば、本号特集に関連する安全性については、路上、車両内、駅などで利用者が被る負傷や所有物破損の発生率とともに、損害原因の除去策（ブレーキ装置など）を評価項目としている。あわせて、評価すべきは交通システム全体であって個々の交通機関ではないこと、また、人間の感覚による評価は数量化が難しく、安全性に関しては大半の利用者が損害を受けた経験がなく、過去の事故などのイメージが影響すると述べている。

なお、続編『交通の質』（1977年発行）では、評価項目の体系化とアンケート調査が行われている。あわせて資料室でご覧いただきたい。（田邊）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

